

二、世界資本主義の諸矛盾の増大

(イ) 世界経済恐慌の結果、世界資本主義に内在する諸矛盾が急激に増大した。

一、帝國主義諸國家間の對立の尖鋭化——市場に對する競争、原料に對する競争、資本の輸出に對する競争等々が益々激化して來た。かかる競争の尖鋭化につれて、帝國主義競争の危險が以前よりも急激に増大して來たことは言ふまでもない。

二、國債と國庫の對立——アメリカ、イギリス、フランス等は、ヤンキー債を手にして、ドイツから數百萬の債金をしぼり取らうとしてゐる。それらの債金は結局、ドイツのプロレタリアートから押取られることになるのだが、ドイツのプロレタリアートが、今後十年間ものあいだ、何等の抵抗を試みることもなしに自國および外國のプロジョアジーの二重の搾取の下に甘んじての生活を続けるべきであらう、といふやうなことは、全く信じ難いことである。國債と國庫との間の對立は今益々尖鋭化するであらう。

三、帝國主義國と殖民地、屬國との間に於ける對立の尖鋭化——支那、印度、メキシコ等に於ける新舊諸國の帝國主義交戰國に對する競争も益々尖鋭化して來た。

四、資本主義國內に於けるブルジョアジーとプロレタリアートとの間に於ける對立の尖鋭化——全世界のあらゆる資本主義國内に於ける階級對立は、今や經濟恐慌の激化と共に益々尖鋭化して來る。

三、ソヴェット聯邦と資本主義諸國との對立

(イ) 世界資本主義に内在する諸矛盾のほか、今一つの矛盾が存在して居る。それは、資本主義世界とソヴェット聯邦との間に於ける矛盾である。この矛盾は、資本主義に内在する矛盾ではない。だが、社會主義の建設を目的としてゐるソヴェット聯邦の存在は、世界資本主義の内部的諸矛盾を激化せしめ、ために資本主義的秩序を維持せんとする各國のブルジョアジーに對して、致命的打撃を與へる。

(ロ) だが、資本主義諸國のブルジョアジーは、なんどかしてソヴェット聯邦をやつたかといふと思つて居る。そして、そのためにソヴェット聯邦に對する挑動的攻撃が行はれ、不斷に干渉の準備がなされて來てゐるのである。

(ハ) だが、干渉はもはやこの程度でも、蘇聯のブルジョアジーは、つたさうと、ソヴェット聯邦に對し干渉をやめてゐる目的のブルジョアリートに對して攻撃されるかも知れない、といふ言葉を不斷に發してゐる。かくして、資本主義諸國のブルジョア政府は、ソヴェット聯邦に對する挑動的態度と、平和的態度とのツカイ掛けをやつてゐる。

(ニ) 一方、ソヴェット聯邦は、徹底的な平和政策を實行してゐるが、しかし、資本主義諸國の武力的干渉に對しては、いつ何時でも戦手として奮ふだけの準備をして居る。

(ホ) かくして、今や各國のブルジョアジーとソヴェット聯邦との間に於ける矛盾は、世界資本主義の矛盾の増大につれて、益々激化して來てゐる。

(B) 國內情勢

一、經濟恐慌の深刻化

(イ) 世界資本主義(特にアメリカ資本主義)に依存する所財も益々日本資本主義は、幾多の世界經濟恐慌の大海の中で浮沈にあえぎ苦しんでゐる。今や工業生産の急激な減少に對して、生産設備の増設が行はれ、中小資本家は益々と倒産し、工場閉鎖、操業短縮、等が隨所に行はれてゐる。更にまた、農村に於ても深刻なる恐慌状態が現れてゐる。しかも今や昭和二年度のそれ以上に深刻なる金融恐慌

の發生するに懸念があるものがある。

(ロ) 日本資本主義のあらゆる激化する危險は、まさに世界經濟恐慌の一部分をなしてゐるものであるが、特にそれは、打つ破く難い不況の態勢である。日本資本主義は、世界競争中に競争に耐へた莫大な利益のおかげで、進歩的設備を付け、工業生産物は不相應な生産量を示すやうになつたが、國內一般大衆の購買力は、國庫の窮乏のため極めて弱く、しかも、國外市場の不足と、競争の激化のため、對外に於いて商品のハケロを見出すことにも、國庫の窮乏を感じてゐる。日本資本主義は、その進歩的設備と共に、その矛盾をも益々激化して來たのである。戦後に於ける日本資本主義は、文字通り、恐慌から恐慌へとよろめき歩いて來た。大正九年に於ける第一次の恐慌、大正十二年(歐戰後)に於ける第二次の恐慌、昭和二年に於ける第三次の恐慌(金融恐慌)、そして更に、今や最も深刻、激烈なる第四次の恐慌が全土をすさまじい不況状態に陥れてゐるのだ。

(ハ) 漢口開港は本年初頭、「金融恐慌」を進行することによつて日本資本主義の行詰りを打倒せんと企てたが、金融恐慌は、進んで世界經濟恐慌の態勢を一相激しく反響せしめたに過ぎなかつた。今や一部の資本家とその他のX X 共は、再び金融出脱の必要を感してゐる。だがブルジョア政策のあらゆる弊害こそ、最早、資本主義的生産方法の埒内に於ては、その經濟的行動を如何ともしなかつたものであること、全大衆の前に表示してゐるものである。